

令和3年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	6	事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
		助成対象団体名： 公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 施設名： 新潟市民芸術文化会館
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>当該劇場の実施計画である「新潟ファイブ・リングス・プロジェクト」は、新潟市の「新潟市文化創造交流都市ビジョン」を元に3つのミッション「新潟から全国へ 世界へ発信」「芸術文化を通じて『生きる力』を育む」「新潟の文化を次世代へ継承し、市民の誇りにつなげる」及び5つのビジョンを掲げ実施するもので、その主軸は、「Noism」（舞踊事業）、「東響定期」（音楽事業）、「プロデュース」（演劇事業）、「ジュニア」（育成事業）、「能楽」（伝統芸能事業）の5つである。事業の構成は明確かつ適正であり、有機的に関連し、当初の予定どおりに事業が進められていると認められる。</p> <p>また、新潟市と情報を共有し、地域性を生かした事業を実施していることから、助成に値する文化的、社会的意義が認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>当該劇場は、「新潟の、ひいては日本の存在感を高める」「より良く生きる社会を作る」「育てた文化を次世代へ、そしてシビックプライドへ」という3つの「最終アウトカム」を明確に打ち出し、その達成のために13の中短期アウトカムの発現に向けた13の目標・指標を設けている。</p> <p>Noism事業、演劇プロデュース公演の全国公演実施数は、新型コロナウイルス感染症の影響で目標に達しない年度が2か年度あったが、Noism専属舞踊団員の指導によるワークショップ等の開催回数は、令和3年度の52回を最高に目標を大幅に上回った。Noism新作公演は地元で初演し好評を得ているとともに、その後の巡回公演は毎年安定して継続しており、中短期アウトカムの【新潟のプレゼンス向上】【クリエイティブクラス（演出家・出演者等）が身近になる】に貢献した。</p> <p>Noism事業のアウトリーチ及び東京交響楽団の学校訪問では、子供たちへ社会参加の機会を提供し、また、東響新潟定期公演（5公演）での工夫を凝らしたプログラムでは、継続的な体験機会を市民に提供したことで、中短期アウトカムの【社会包摂の拡大】に寄与した。</p> <p>共同事業では、マスコミや実演家団体等との連携により、中短期アウトカムの【地域で文化を支え継承】する役割を果たした。</p> <p>「ジュニア音楽教室」、「APRICOT」では、専門家による質の高い指導による練習と発表会を実施し、舞台芸術を担う人材の養成を図るとともに、子供たちのコミュニティとしての役割も果たした。300人以上の子供が参加し、子供、指導者、家族、スタッフが活動の意義を共有しながら、次世代の舞台芸術を担う人材の育成を行い、中短期アウトカムの【地域の文化活動の活性化】に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>Noism事業、東響新潟定期演奏会、演劇プロデュース公演では、質が高く独創性の優れた創作活動を行っており、中短期アウトカムの【舞台芸術がより身近】になっていると認められる。</p> <p>以上のことから、一部に未達成の目標があるものの、おおむね目標を達成し、一定程度</p>		

のアウトカムの発現が認められる。

（効率性）

事業期間はおおむね適切であったと認められるものの、一部の事業において、要望時の事業期間と実績との間にかい離があった。事業期間について、実効性のある事業計画の立案と適切な事業実施に努めてほしい。

また、事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、適切であったと認められる。

（創造性）

国内唯一の専属舞踊団「Noism」を有していることは、当該劇場の大きな特徴として挙げられる。年2回の定期公演では、「春の祭典」「ROMEO&JULIETS」「残影の庭」「Near Far Here」をはじめとする新作及びレパートリーを上演し、いずれも高度な芸術水準を保っている。芸術監督金森穰による数々の作品は、国内のみならず海外のフェスティバルからの招待も受けるなど、国際的な評価を得ている。金森は我が国の舞踊界をけん引している希少な存在として、芸術選奨文部科学大臣賞、毎日芸術賞、紫綬褒章など受賞歴も多く、自身の芸術観、新潟市とのやりとりをカメラが追った新潟放送制作「芸術の価値 舞踊家金森穰 16年の闘い」は、令和2年度第75回文化庁芸術祭賞テレビ・ドキュメンタリー部門大賞を受賞したことは特筆すべきことである。公演ごとの寄せ集めではなく、専属舞踊団だからこそ実現できるNoismの存在意義は評価に値し、成果としての作品に独創性、新規性、先導性が認められる。

多様性を目的に、森優貴や山田うんなど外部の振付家にNoismのための新作を委嘱、Noism作品とのダブルビル公演を実施する新たな試みを展開している。また、「サマースクール」は次世代のダンサーの育成を目的とし、オリジナルなNoismメソッドを普及させている点からも独創性が認められ、舞踊界に及ぼす影響として先導性が認められる。

ジュニア音楽教室事業は、300名近い子供たちの参加により、オーケストラ、合唱、邦楽合奏の団体を運営している。初心者でも受け入れる独自のカリキュラムを整備している点、3団体が一体となって公演を行うなどの点から、独創性が認められる。

「東響定期」では、在京のトップレベルのオーケストラである東京交響楽団を準フランチャイズ・オーケストラに位置付け、芸術性の高い演奏を年間5回実施していることは全国的にも珍しく、先導性が認められる。

「APRICOT」は、「APRICOTの銀河鉄道の夜」などの創作活動を通して子供達が豊かな感性と表現力をはぐくみ、コミュニケーション能力の向上につなげている。人材育成事業として独創性、先導性が認められる。

りゅーとぴあプロデュース公演「イン・ザ・プール」などでは、人気アイドルグループの一員と文学座のベテラン俳優のキャスティングが功を奏し観客拡充が図られた。世田谷パブリックシアターとのネットワークを生かしたプロデュース手法には独創性があったと認められる。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

市の文化政策の変化に伴い、劇場が運営する専属舞踊団 Noism において、2019 年に存続問題が浮上した。制度設計自体の見直し、再検討が行われ、2021 年 10 月に、芸術監督の任期を 1 期 5 年、上限 2 期 10 年とすることが決定した。それを受け、国際活動部門の芸術監督（井関佐和子）、地域活動部門の芸術監督（山田勇氣）、統括する芸術総監督（金森穰）といった新体制のもと、5 年間ないし 10 年間という中・長期展望に立ち、運営、企画内容、活動全般の進化を目指し、活動の継続、拡充など新たな取組がなされている。さらに Noism は、地元根差した公共劇場専属舞踊団として、Noism Company Niigata と改称した。

演劇の芸術監督は現在欠員となっているが、現在は専門性を有する財団職員がいるため、支障なく事業が継続されている。

ジュニア音楽教室で育った子供たちの中には、音楽大学に進み、現在音楽教室の講師となっている受講者もいるなど、安定感のある継続事業となっている。

また、2020 年度より民間会社に依頼して、会員データの分析を行い、今後利用者を増加させるための企画に努めている。

財政面では、ファンドレイザーの養成、寄付制度の見直し、ホールスポンサーを探すなど、資金調達に努力している。また、労働法改正後に正規職員化を進めることにより雇用の安定化に努めている。

以上のことから、組織活動が持続的に発展し、持続的なアウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

（総 評）

ミッション、ビジョン、アウトカムとそれに対する目標などが明確で意欲的に事業展開している。

舞踊、演劇、音楽の各ジャンルに芸術監督を設けている劇場は、ほかにほとんど見受けられない。それぞれの芸術監督の個性を生かした事業で、劇場、コンサートホール、能楽堂の空間が機能し、「新潟ファイブ・リングス・プロジェクト」が展開されている。事業計画は、妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において、おおむね適切に進められていると認められる。

Noism 存続に関する新体制が発表されたことにより、市の要請を受けて、地元と寄り添いながら、金森はじめカンパニーメンバー及び制作スタッフが、腰を据えて計画を立てることが可能になり、今後のより一層の活躍に期待が持てる。

市との情報共有や交流も活発に行われており、我が国を代表する公立劇場として、戦略的な事業展開を実行しているとおおむね認められる。